

令和 5 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	CAD 演習ⅡA	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：30 時間 / 後期：時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	AutoCAD の基本操作、平面図の作図を学び、次年度以降に CAD 利用技術者試験の取得や CAD オペレーターとしての就職を目指す。		
目指す検定・資格	CAD 利用技術者試験		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	2DCAD の基本を習得し、基本的な平面図の作図を行う。 また CAD 利用技術者試験に向けての動機づけを行う。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	AutoCAD の基礎を学び平面図の作図ができる		
到 達 目 標	1.2DCAD の平面図の作図ができる		
成 績 評 価 方 法	期末試験（55%）、課題提出（40%）、出席率（5%）で評価する。		
テキスト・副読本	・デザインの学校 これからはじめる AutoCAD の本 技術評論社		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3年
科 目 名	CAD 演習ⅡB	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：時間 / 後期：30時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	Fusion360 を使用して、基本的な機能や 3D データを作成する際の考え方を身に付ける。		
目指す検定・資格	CAD 利用技術者試験		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と			
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	CAD利用技術者基礎試験に向けて、基礎事項を学ぶ。		
到 達 目 標	Fusion360 を使用して、3Dの基礎図形が作成でき、3Dプリンターへの出力方法が理解できる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（55%）、課題提出（40%）、出席率（5%）で評価する。		
テキスト・副読本	次世代クラウドベース 3DCAD Fusion 360 操作ガイド ベーシック編 2022 年版 スリプリ（株式会社 VOST）		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	IT 企業リテラシー I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期：60 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>日本の IT 関連企業で就労する上で、新入社員から中堅社員としてスムーズなキャリアパスができるように、専門的な企業形態や仕組みを知る。</p> <p>日本の社会で通用する（正しい敬語を使用し）ビジネス文書が書けるようになる。</p> <p>SPI の問題（言語分野）を理解し、解けるようになる。</p>		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本と母国の両面を知り、企業活動に特化して知ることができる。</p> <p>それぞれ就職したい分野についての仕事の理解と実践ができるようになる。</p>		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	留学生が日本の IT 関連企業に就職をし、仕事をしていく上で有益となる知識を身につけ、自己発信力や傾聴力をさらに伸ばし、社会人基礎力などを理解していく。		
到 達 目 標	<p>組織とは何かを理解する</p> <p>組織における人材の重要性を理解する</p> <p>組織行動と個人行動の違いを理解する</p> <p>個人のビジョンとミッションを持たせる</p>		
成 績 評 価 方 法	期末試験（95%）、出席率（5%）		
テキスト・副読本	<p>あつという間にまるわかり！SPI 問題集 図解&書き込み式</p> <p style="text-align: right;">株式会社 長岡書店</p> <p>資料配布</p>		

令和 5 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	IT 企業リテラシー II	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期： 時間 / 後期： 36 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	各就職分野に応じた専門的な学びを、システム開発分野・CAD 設計分野・Web 分野・システム制御分野ごとに実践的に学ぶ		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	各分野の実践応用演習を通じ戦力として活躍できる人材を目指す		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	<p>①システム開発分野 PHP の学習を通じて、独自の Web システムを構築する上でのプログラム設計を行う</p> <p>②CAD 設計分野 AutoCAD を利用して、設計図の作図に必要な基礎知識の習得と作図技術の習得し、一から設計図を起こす事ができる。</p> <p>③Web プログラミング分野 Web プログラムである PHP 言語と DB の MySQL サーバを用い、学生独自のショッピングサイトシステムを作成する。</p> <p>④システム制御分野 シーケンス制御における、応用データ（数値やデーや処理を行う命令）を用いることによって応用制御ができる</p>		
到 達 目 標	<p>① システム開発分野 システム開発の概要を理解し、システム設計を実際に行える</p> <p>②CAD 設計分野 AutoCAD の基本操作を理解し、設計図に必要な基礎知識を習得する。設計図を一から作図する事が出来る。</p> <p>③Web プログラミング分野 PHP の概念や役割を説明し、DB を用いた、Web プログラミングを理解・作成することができる。</p> <p>④システム制御分野 四則演算を使用したシーケンスプログラムの作成が学習できる</p>		
成 績 評 価 方 法	課題制作物（50%）、中間発表（45%）、出欠席（5%）で評価する。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>①システム開発分野：『スラスラわかる PHP』翔泳社</p> <p>②CAD 設計分野： はじめて学ぶ AutoCAD 作図・操作ガイド、自校作成</p> <p>③Web プログラミング分野：『気づけばプロ並み PHP』（リックテレコム）</p> <p>④システム制御分野：自校作成</p>		

令和 5 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	IT 実践演習	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：時間 / 後期：85 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	CAD と製図の基本技術を身につけるため、CAD 利用技術者基礎試験の合格を目指す。		
目指す検定・資格	CAD 利用技術者基礎試験		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	2023 年度版 CAD 利用技術者試験 2 次元 2 級・基礎公式ガイドブックに沿って講義、問題演習・解説を繰り返し、理解を深める。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	CAD 利用技術者基礎試験の合格に向けて、CAD システムを利用する上でのコンピュータ関連の知識や製図の知識、図形の知識を、基礎的かつ幅広く身に付ける。		
到 達 目 標	CAD 利用技術者基礎試験に合格する。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（55%）、課題提出（40%）、出席率（5%）で評価する。		
テキスト・副読本	2023 年度版 CAD 利用技術者試験 2 次元 2 級・基礎公式ガイドブック 日経 BP マーケティング		

令和 5 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	JavaScript 演習	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	若林 潤一
時 間 数	前期：30 時間 / 後期：時間	実務経験：県内システム会社勤務を経て WEB サービス会社の社長 COO として従事した後独立。Web システムの開発、サービス提供の経験をもとに講義を行う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	JavaScript の基本的な文法を習得する。JavaScript を用いて動的なアプリケーションを作成する。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	座学・演習形式		
そ の 他	特になし		
	前 期		
授 業 の 概 要	JavaScript および jQuery の基本文法を学習する。Web サイトに動的なパーツや要素を作成しインタラクティブなサイトを制作する。		
到 達 目 標	JavaScript の文法を用いて、ブラウザの表示を動的に変更するアプリケーションを作成できる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (95%)、制作物 (30%)、授業態度 (5%)、出席率 (5%)		
テキスト・副読本	・いちばんやさしい JavaScript の教本 第 2 版 ECMAScript 2017(ES8)対応 人気講師が教える Web プログラミング入門 (インプレス)		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際ITシステム学科		3年
科 目 名	Javaプログラミング演習	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：62時間 / 後期： 時間	実務経験：情報系専門学校を卒業後、S I e r でのS E(製造・流通系)としての経験を活かし、 学生がシステム開発を行っていく上での技術や 各部署間でのコミュニケーションの大切さを修 得できるよう講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	本講義では、コンピュータプログラミング入門として、幅広い分野で使用されている 言語 Java を教材とし、メソッド、クラスとオブジェクト、継承、総称、例外、イン タフェース、パッケージ、スレッド等の演習中心に授業する。言語習得の近道は、 たくさんのプログラムを作成することが必要と考え、Java の基本的な文法及び、オブ ジェクト指向の考え方を学習し、オブジェクト指向を用いたプログラミングができる ようになる。		
目指す検定・資格	サーティファイ Java プログラミング能力認定試験 3 級		
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	基本文法を講義で行い、章末問題で確認をしていく。 座学と実習を組み合わせた複合的な授業展開。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	プログラムの流れを考え、必要な文法をどう使って作成できるか、基本文法の修得をする。 また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着ける。基礎でパ ターン化された手順を学び、その後、実習を通して理解度を深める。 ・Java による基本的な処理とデータ構造の理解 (式と演算、条件分岐、繰返し、配列、 メソッド) ・オブジェクト指向の基本概念の理解 (インスタンスとクラス、コンストラクタ、カ プセル化、継承、インタフェース、多態性、API、例外)		
到 達 目 標	基礎的な文法、考え方を身につけることを目的とする。 また、Java プログラミング能力認定試験 3 級の合格を目指すことで、Java の能力を高 める。 オブジェクト指向プログラミングの基本的概念を理解し、オブジェクト指向を用いた Java 言語プログラミングができるようになる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (60%)、確認テスト (30%)、授業態度 (5%)、出欠席 (5%) で評価をつけ る。		
テキスト・副読本	スッキリわかる Java 入門 第3版 インプレス スッキリわかる Java 入門 実践編 第3版 インプレス		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	コンピュータシステムⅢ	科 目 区 分	一般科目 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期： 時間 / 後期：47時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	IT パスポートは、情報処理推進機構（IPA）が実施し、経済産業省が認定する。日本の国家試験であり、IT を利活用するすべての社会人・学生が備えておくべき IT に関する基礎的な知識を証明する試験である。本講義では、留学生が、現代社会の IT 企業で IT をスキルの軸として活躍するために必要な IT に関する基礎知識を幅広く、身につけることを目的に、目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説をし、能動的に理解を深め、検定取得レベルまで引き上げる。		
目指す検定・資格	IT パスポート試験		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説で行う。グループワークでは、グループのリーダーがファシリテーションをし、グループワークを円滑にすること、またグループ内で発表者を決め、いろんなメンバーが発表するなど、理解した内容を日本語でアウトプットする機会を与える。		
その他	11月での受験を目指す。 IT パスポートの勉強に並行して、わからない日本語を Quizlet 等に入力させ、日本語力強化もはかる。		
	後 期		
授 業 の 概 要	プログラムの流れを考え、必要な文法をどう使って作成できるか、基本文法の修得をする。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着ける。基礎でパターン化された手順を学び、その後、実習を通して理解度を深める。		
到 達 目 標	IT パスポート取得に必要な、また日本の IT 企業で働くのに必要な、IT 全般の知識、ストラテジー系、マネジメント系、テクノロジー系の各分野の理解の深化をし、IT パスポートを取得できるレベルの到達を目指す。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（60%）、確認テスト（30%）、授業態度（5%）、出欠席（5%）で評価をつける。		
テキスト・副読本	いちばんやさしい IT パスポート絶対合格の教科書＋出る順問題集（SBCreative）		

令和 5 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	システム制御演習 II	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	赤木 伸
時 間 数	前期：時間 / 後期：15 時間	実務経験： 1982 年-1987 年制御系 SE として、大型プラント作成に従事。1987 年-1989 年情報提供システム構築にユーザ側 SE として従事。1989 年-専門学校システムの構築、運営に従事。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	企業においては、製造部門ではシーケンス制御装置が多用されており、設計・開発部門では、CAD や CAE など支援ツールを活用して製品開発を行う場面が多くなってきている。本講義では、機械制御の実際と実機を利用して工場の制御システム及び PLC 言語の基礎を学習する		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	本実習では、PLC によるシーケンス制御実習システムの構築・実験を通して、計測・制御の知識・技術を身につける。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	配布テキストに基づき、課題実習を行い、その都度提出する。 シーケンス制御システムの構築を行う。		
到 達 目 標	1. シーケンス制御の基本が理解できる 2. PLC プログラムを作成し、動作を確認することができる		
成 績 評 価 方 法	期末試験 (95%)、出欠席 (5%) で評価する。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	自校作成		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際ITシステム学科 3年		
科 目 名	データベース演習	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	若林 潤一
時 間 数	前期：30時間 / 後期： 時間	実務経験：県内システム会社勤務を経てWEB サービス会社の社長 COO として従事した後独立。Web システムの開発、サービス提供の経験をもとに講義を行う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	SQL の基本的な文法及び、正規化の考え方を学習し、SQL が発行できるようになる。		
目指す検定・資格	なし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	座学と実習を組み合わせた複合的な授業展開。学生には課題の取り組みと他者をフォローしあう。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・ SQL の基本文法の理解 ・ 正規化の基本概念の理解 ・ テキストに従い、各章のポイントを学んだ後、章末の練習問題で動作確認を行う。 		
到 達 目 標	情報処理試験の SQL の問題が解けるレベル		
成 績 評 価 方 法	期末試験 90%、授業態度 5%、出席率 5%で評価をつける。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	スッキリわかる SQL 入門 第2版 (インプレス社)		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	ビジネス実務Ⅲ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	通期：48時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本の社会で働く上で必要な社会のマナーを理解し、あらゆるビジネスシーンに対応できる力を身につける。 日本で就職するうえで必要な知識や技術（敬語、ビジネス文書、SPI、グループディスカッション）を深める。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	日本社会で働く上で必要な知識を深め、主体的に考えたり学んだりできる力を身につけてほしい。		
そ の 他	就労ビザ取得に向けて必要な書類や文書も正しい日本語で書けるようになる。		
	前 期		
授 業 の 概 要	日本で働く上で必要な知識（敬語、ビジネス文書、SPI、グループディスカッション）を深め、日本社会で活躍できる人財になれるようにする。		
到 達 目 標	日本の社会で通用する（正しい敬語を使用し）ビジネス文書が書けるようになる。 SPI の問題（非言語分野）を理解し、解けるようになる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（95%）、出欠席（5%）で総合的に評価する。		
テキスト・副読本	あっという間にまるわかり！SPI 問題集 図解&書き込み式 株式会社 長岡書店		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	ビジネス実務IV	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期： 時間 / 後期：35 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本の社会で働く上で必要なビジネスのルール、社内・社外のマナーを理解し、あらゆるビジネスシーンに対応できる力を身につける。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	日本社会で働く上で必要な知識を深め、主体的に考えたり学んだりできる力を身につけてほしい。		
そ の 他	就労ビザ取得に向けて必要な書類や文書も正しい日本語で書けるようになる。		
	通 期		
授 業 の 概 要	あらゆるビジネスシーンで必要とされる構文または談話レベルの発話—敬語や待遇表現—について、実際の場面を設定し、学生自ら主体的に学べるようグループワークで実践し、日本のビジネス社会で使えるようする。		
到 達 目 標	今までに身につけた日本語力を来年の4月から日本の社会で働くにあたり、正しい敬語や表現を使えるようにする。日本の実社会で働く上でのコミュニケーション能力を高める。グループディスカッションにおいて、(日本の会社で通用する)自分の意見が正しい日本語で発言できるようになる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 75%、確認テスト (スピーキング含む) 20%、出欠席 5%で総合的に評価する。		
テキスト・副読本	留学生日本で・働く人のためのビジネスマナーとルール 特定非営利活動法人 日本語教育研究所 武田聡子他		

令和 5 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	ビジネス表計算技法Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	中上 篤
時 間 数	前期：30 時間 / 後期： 時間	実務経歴：大手企業で、SE としてシステム設計業務に従事した経験を活かし、実務に則した指導を行う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	講義内容としては、テキスト例題 30+演習問題 70 でしっかり学ぶ Excel の内容を行う。 Excel を操作したことがない学生が大半であるため、基礎から行っていく。実際にパソコンを使用して、確実に処理が行われているか確認しながら、サーティファイ主催の Excel 検定 3 級合格レベルまで引き上げていく。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	テキストを単元ごとに進み、まず実際に Excel 操作を確認させ、その後実習を行っていく。卒業後も就職先やプライベートでも Excel は必須であることを自覚させ、できるまで繰り返し操作をし、ひとつずつマスターしていく。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	Excel 表計算処理技能認定試験の 3 級レベルを目指す。Excel の基本的な操作（データ入力、罫線・グラフの作成、関数の利用、セルの参照、判定条件、検索関数）について学ぶ。		
到 達 目 標	表計算ソフトの基本機能と操作方法を習得する。関数を使った簡単な表を作成し、必要に応じて並べ替えやフィルター、を設定できグラフの作成まで出来るようにする。		
成 績 評 価 方 法	前期試験 95%、出席席状況 5%		
テキスト・副読本	例題 30+演習問題 70 でしっかり学ぶ Excel (技術評論社)		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際ITシステム学科		3年
科 目 名	プレゼンテーション技法Ⅱ	科 目 区 分	一般科目・専門科目
開 講 期	前期・後期・通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期： 時間 / 後期：32時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	実社会において必要なプレゼンテーション力を身につける。コミュニケーションが重視される社会において、人前で話すという行為は避けて通ることができない。この授業を通してプレゼンテーションの基本的な知識と技術を伝え、実践する機会を設けることでプレゼンテーション力を身に付けていく。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	プレゼンテーションを行うために準備するパワーポイント作成のポイントと発表やその構成を考え、発表を行う準備をする授業に分けて指導。 多くの人の前で話せるようになってほしい。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	学生が実社会において必要なプレゼンテーション力を身に付けるための授業である。コミュニケーションが重視される社会において、人前で話すという行為は避けて通ることができない。プレゼンテーションの基本的な知識と技術を伝え、実践（個人発表、グループ発表、パワーポイント作成）する機会を設けることでプレゼンテーション力を身に付けていく。		
到 達 目 標	実社会において、人前で話すことに苦手意識を持たずに自分の考えを表現し、コミュニケーション力を身に付けた学生を育てる。		
成 績 評 価 方 法	制作物（90%）、授業態度（5%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本	テキスト：プリント		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	卒業研究	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期：時間 / 後期：99 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	システム開発、アプリケーション開発、制御のチームに分かれ、ビジネス系から出された案をもとに IT を使用してどんな解決ができるか企画し、開発、テスト、プレゼンテーションを行い、自分の立ち位置を考えてメンバーと協力しながら納期限内に完成させる。		
目指す検定・資格	なし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	システム開発、アプリケーション開発、制御を行う組分けから学生自身が決め、それぞれのチームにおいて話し合いの中で作業分担を行い、それぞれの分野における仕事の経験をする。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	システム企画、基本設計、プログラミングの工程を経てシステムを完成させる。		
到 達 目 標	システム開発の一連の工程を経験することで、開発の要点や独力で開発を進める技術力を身につける。また、チームで開発を行うことでチームワークを身につける。		
成 績 評 価 方 法	課題制作物 (50%)、中間発表 (45%)、出欠席 (5%) で評価する。		
テキスト・副読本	なし		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	実践ビジネスコミュニケーション	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期：15時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本で社会人として働く上で必要なコミュニケーション力や習慣等（敬語の正しい使い方やビジネスで使われる言葉）を身につける。また、敬語の意味や使い方を学習しながら、日本社会のあらゆるビジネスシーンで対応きる実際のコミュニケーション力を養う。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	ビジネスで必要とされる構文または談話レベルの日本語力（コミュニケーション力）を身につけ、日本社会で働くために必要な会話力の向上を目指す。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	あらゆるビジネスシーンで必要とされる構文または談話レベルの発話—敬語や待遇表現—について、実際の場面を設定し、学生自ら主体的に学べるようグループワークで実践し、日本のビジネス社会で使えるようする。		
到 達 目 標	今までに身につけた日本語力を来年の4月から日本の社会で働くにあたり、正しい敬語や表現を使えるようにする。日本の実社会で働く上でのコミュニケーション能力を高める。グループディスカッションにおいて、（日本の会社で通用する）自分の意見が正しい日本語で発言できるようになる。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 75%、確認テスト（スピーキング含む）20%、出欠席 5%で総合的に評価する。		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	留学生日本で・働く人のためのビジネスマナーとルール 特定非営利活動法人 日本語教育研究所 武田聡子他		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3年
科 目 名	接遇演習	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期：時間 / 後期：21 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	お茶の出し方や名刺交換等のビジネスマナー、冠婚葬祭の基礎知識、食事のマナーなど、社会人として必要なビジネスマナー・大人として必要なマナーすべてを習得する。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	座学だけでは社会に出て実践するときに応用が利きにくいいため、演習を行い、実際に経験し物に触れて体感的に学ぶことを取り入れていく。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	<p>食事のマナー・テーブルマナー、名刺交換等、すぐに役立つ内容を、座学と実習の両面から学ぶ。</p> <p>冠婚葬祭を中心に基礎知識を学び、祝儀・不祝儀袋の記入等の実践的な学習も行う。</p>		<p>お茶出しについては、お茶の提供から頂き方までを実践的に学ぶ。</p> <p>手紙の書き方を学ぶ。</p> <p>ビジネス文書作成方法を学ぶ。</p> <p>訪問のマナーお中元お歳暮のマナーを知る。</p>
到 達 目 標	<p>面接時等に採用担当者から名刺をいただいた際に、名刺を正しく扱うことができる。</p> <p>テーブルマナーの基本的なマナーを学び、フルコースをいただくことができる。</p> <p>冠婚葬祭の代表的な事柄を知る。</p> <p>祝儀袋等を正しく記入することができる。</p>		<p>お客様に対してお茶出しが実践できる。また、お茶とお菓子を出された際に、マナーを守っていただくことができる。</p> <p>時と場合に応じた手紙の書き方、ビジネス文書の作成方法を知り、実践できる。</p>
成 績 評 価 方 法	・ 期末試験 95%、出席率 5%で評価		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>・ 実社会で求められる ビジネスマナー 専門教育出版 井上 洋子 著</p> <p>・ 講師作成資料配布</p>		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	日本語能力試験 V (N1.N2.N3)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	小野 美穂子
時 間 数	前期：60 時間 / 後期：時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	<p>JLPT 日本語能力試験の取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。</p> <p>また、社会人として日本人と同様に働く上で必要なビジネス日本語を理解する。</p>		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	<p>日本語能力試験 N1 合格</p> <p>語彙・文法・聴読解・会話作文の各授業で学んだ内容を、JLPT 試験の問題答練として演習し、確実に合格できるようにしていく。</p> <p>日本語能力試験 JLPT の試験を同様の形式で行うことにより、自身の課題発見につなげる。</p> <p>また、検定前3カ月間は月に一度の模試を行い、検定1週間前には集中対策期間として、毎日、言語知識、読解、聴解と分野を分けて模試を行う。</p> <p>模試の振り返りや自己学習の時間も設けて学習内容の定着を計る。</p>		
そ の 他	<p>期末試験は、N1～N3 の受験級にあわせて実施。</p>		
	前 期		
授 業 の 概 要	<p>模擬問題を中心とした問題演習と解説、模擬試験の実施</p>		
到 達 目 標	<p>日本語能力試験 JLPT 合格</p> <p>社会人として日本人と同等に働く上で、必要なコミュニケーションを習得し、ビジネス日本語を理解できる。</p> <p>JLPT の受験級に合わせ、検定前3カ月の模擬試験実施と、検定直前1週間の集中対策授業で JLPT 同様の模擬試験、振り返り、自己学習の時間を作り、学習内容の定着を計る。</p>		
成 績 評 価 方 法	<p>期末(模擬)試験 (85%) 提出物 (10%) 出席率 (5%)</p>		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	<p>「はじめての日本語能力試験 N1～N3 合格模試」3回分 アスク出版</p> <p>「日本語の森 この1冊で合格する 日本語の森」</p> <p>「話す・各につながる！日本語読解 中級 中上級」アルク出版</p>		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	経営マネジメント概論 I	科 目 区 分	一般科目 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：46 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	IT パスポートは、情報処理推進機構（IPA）が実施し、経済産業省が認定する。日本の国家試験であり、IT を利活用するすべての社会人・学生が備えておくべき IT に関する基礎的な知識を証明する試験である。本講義では、留学生が、現代社会の IT 企業で IT をスキルの軸として活躍するために必要な IT に関する基礎知識を幅広く、身につけることを目的に、目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説をし、能動的に理解を深め、検定取得レベルまで引き上げる。		
目指す検定・資格	IT パスポート試験		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説で行う。グループワークでは、グループのリーダーがファシリテーションをし、グループワークを円滑にすること、またグループ内で発表者を決め、いろんなメンバーが発表するなど、理解した内容を日本語でアウトプットする機会を与える。		
その他	11 月での受験を目指す。 IT パスポートの勉強に並行して、わからない日本語を Quizlet 等に入力させ、日本語力強化もはかる。		
	前 期		
授 業 の 概 要	プログラムの流れを考え、必要な文法をどう使って作成できるか、基本文法の修得をする。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着ける。基礎でパターン化された手順を学び、その後、実習を通して理解度を深める。		
到 達 目 標	IT パスポート取得に必要な、また日本の IT 企業で働くのに必要な、IT 全般の知識、ストラテジー系、マネジメント系、テクノロジー系の各分野の理解の深化をし、IT パスポートを取得できるレベルの到達を目指す。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（60%）、確認テスト（30%）、授業態度（5%）、出欠席（5%）で評価をつける。		
テキスト・副読本	いちばんやさしい IT パスポート絶対合格の教科書＋出る順問題集（SBCreative）		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	経営マネジメント概論Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	熊谷 成則
時 間 数	前期：15 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	IT パスポートは、情報処理推進機構（IPA）が実施し、経済産業省が認定する。日本の国家試験であり、IT を利活用するすべての社会人・学生が備えておくべき IT に関する基礎的な知識を証明する試験である。本講義では、留学生が、現代社会の IT 企業で IT をスキルの軸として活躍するために必要な IT に関する基礎知識を幅広く、身につけることを目的に、目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説をし、能動的に理解を深め、検定取得レベルまで引き上げる。		
目指す検定・資格	IT パスポート試験		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	目的提示→自己学習→グループワーク→ワンポイント解説で行う。グループワークでは、グループのリーダーがファシリテーションをし、グループワークを円滑にすること、またグループ内で発表者を決め、いろんなメンバーが発表するなど、理解した内容を日本語でアウトプットする機会を与える。		
その他	11 月での受験を目指す。 IT パスポートの勉強に並行して、わからない日本語を Quizlet 等に入力させ、日本語力強化もはかる。		
	前 期		
授 業 の 概 要	プログラムの流れを考え、必要な文法をどう使って作成できるか、基本文法の修得をする。また、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着ける。基礎でパターン化された手順を学び、その後、実習を通して理解度を深める。		
到 達 目 標	IT パスポート取得に必要な、また日本の IT 企業で働くのに必要な、IT 全般の知識、ストラテジー系、マネジメント系、テクノロジー系の各分野の理解の深化をし、IT パスポートを取得できるレベルの到達を目指す。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（60%）、確認テスト（30%）、授業態度（5%）、出欠席（5%）で評価をつける。		
テキスト・副読本	いちばんやさしい IT パスポート絶対合格の教科書＋出る順問題集（SBCreative）		

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	通訳 I	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期：30 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本のビジネスに必要な基本的なこと（敬語やビジネスマナー）を身につける。また、敬語の意味や使い方を学習しながら、日本社会のあらゆるビジネスシーンで対応きる実際の会話力を養う。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	ビジネスで必要とされる構文または談話レベルの日本語力（聴解・発話）を身につけ、日本社会のマナーを理解する。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	あらゆるビジネスシーンで必要とされる構文または談話レベルの発話—敬語や待遇表現—について、実際の場面を設定し、学生自ら主体的に学べるようグループワークで実践し、日本のビジネス社会で使えるようする。 他学科との交流授業の中で、SDG s についての意見を日本人に伝えることができる。		
到 達 目 標	あらゆるビジネスシーンに応じて、正しい敬語や表現を使うことができる。日本のビジネスマナーを理解し、実社会でのコミュニケーション能力を高める。		
成 績 評 価 方 法	期末試験 85%、確認（スピーキング含む）テスト 10%、出欠席 5%で総合的に評価する。		
テキスト・副読本	実用ビジネス日本語		株式会社 アルク

令和5年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	国際 IT システム学科		3 年
科 目 名	通訳 II	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	難波 芳子
時 間 数	前期： 時間 / 後期： 16 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	日本のビジネスに必要な基本的なこと（敬語やビジネスマナー）を身につける。また、敬語の意味や使い方を学習しながら、日本社会のあらゆるビジネスシーンで対応きる実際の会話力を養う。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	ビジネスで必要とされる構文または談話レベルの日本語力（聴解・発話）を身につけ、日本の社会において、社会人としてきちんとした文章が書け、話せるようにする。また、文章のアウトプットとして学内新聞の発行ができるよう準備する。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	あらゆるビジネスシーンで必要とされる構文または談話レベルの発話—敬語や待遇表現—について、実際の場面を設定し、学生自ら主体的に学べるようグループワークで実践し、日本のビジネス社会で使えるようする。		
到 達 目 標	あらゆるビジネスシーンに応じて、正しい敬語や表現を使うことができる。日本のビジネスマナーを理解し、実社会でのコミュニケーション能力を高める。 学内新聞発行（1月）		
成 績 評 価 方 法	提出課題 75%、確認テスト（スピーキング含む）20%、出欠席 5%で総合的に評価する。		
テキスト・副読本	実用ビジネス日本語		株式会社 アルク